

参加費
無料

山形大学工学部

検索

詳しくはwebをご覧ください

第2回置賜マイクロ・ナノバイオフィォラム

『微生物という 精密有機デバイスの産業利用』

日時 平成26年 **1月24日** 金
開場12:30 開演13:00

場所 **伝国の杜・置賜文化ホール**
山形県米沢市丸の内1-2-1 TEL:0238-26-2666

はじめに 13:00~13:10

飯塚 博(山形大学工学部長・山形大学国際事業化研究センター長)

趣旨説明 13:10~13:20

「微生物の応用による地域発展」

原 富次郎(山形大学産学連携教授)

特別講演 13:20~14:10

「D-アミノ酸：基礎研究から応用へ」

吉村 徹(名古屋大学大学院生命農学研究科 教授)

特別講演 14:10~15:00

「浄化微生物開発とバイオレメディエーション利用指針適合」

福田 雅夫(長岡技術科学大学工学部生物系 教授)

一般講演 15:00~15:15

「Bacterial Growth Inhibition of PVA/ZnO nanofiber mat」

Tongsai Jamnongkan(山形大学大学院理工学研究科)

休憩 15:15~16:05

ブース展示・ポスター掲示などご覧ください。

企業講演 16:05~16:35

「微生物農薬の開発と普及活動」

平野 人(出光興産株式会社 環境・バイオ研究室長)

企業講演 16:35~17:05

「MALDI-TOF質量分析計による簡便・迅速な微生物同定法のご紹介」

島 圭介(株式会社島津製作所 分析計測事業部
グローバルアプリケーションセンターライフサイエンスグループ 主任)

企業講演 17:05~17:35

「微生物を使ってCO₂から化学品原料を生産」

田中 章(株式会社地球快速化学インスティテュート 未来予測室 チーフアナリスト)

おわりに 17:35~17:40

新國 時生(山形大学客員教授)

※時間は目安です。

当日は小会議室で企業によるブース展示・ポスター掲示を行います。

休憩時間などにご覧ください

- ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 ●株式会社パイオット ●有限会社新東物産
 - ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社(株式会社和泉テック) ●オリンパスメディカルサイエンス販売株式会社(株式会社シバティンテック)
 - 株式会社島津製作所
- その他、多数の企業の参加を予定しております。

主催/国立大学法人山形大学

共催/アプリザイム株式会社・松田会計事務所・有限会社新東物産・株式会社タカハタ電子・KYB株式会社・山形銀行
東洋製織グループホールディングス株式会社・三菱商事株式会社・株式会社三菱ケミカルホールディングス その他多数社予定

後援/山形県・米沢市・米沢信用金庫・荘内銀行・きらやか銀行・株式会社日本政策金融公庫(米沢支店)・山形新聞・山形放送

※このフォーラムは、山形県置賜総合支庁「次世代産業技術普及・啓発事業プロジェクト」の支援を受けて開催いたします。

本セミナーに関する
お問い合わせは
こちらまで

事務局：山形大学工学部 研究プロジェクト支援室 吉村

〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16 TEL.0238-26-3590 FAX.0238-26-3240

※この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

第2回置賜マイクロ・ナノバイオフィォラム 微生物という精密有機デバイスの産業利用

よしむら
吉村

とおる
徹氏

名古屋大学院農 教授

特別講演 「D-アミノ酸：基礎研究から応用へ」

概要

分析技術の進展に伴い、哺乳動物にも様々なD-アミノ酸が存在し、多彩な生理機能を担うことが明らかとなった。例えば、D-セリンは哺乳動物脳内に存在し、記憶や学習などに関与するN-メチル-D-アスパラギン酸(NMDA)型受容体のコアゴニストとして機能しており、そのためD-セリンの挙動は統合失調症など様々な神経疾患に関連する。一方D-アスパラギン酸には、脳ホルモンの分泌制御や生殖機能との関連が示唆されている。本講演ではD-アミノ酸の機能や代謝を紹介するとともに、食品等への応用について展望する。

プロフィール

専門は生化学、酵素化学。昭和59年・京都大学大学院農学研究博士課程修了、昭和60年・京都工芸繊維大学繊維学部 助手、平成元年・京都大学化学研究所助手、平成9年・京都大学化学研究所助教授、平成15年・名古屋大学大学院生命農学研究科 教授、平成2年～4年・米国ロックフェラー大学にて博士研究員。

ふくだ

まさお

福田 雅夫氏

長岡技科大工 教授

特別講演 「浄化微生物開発とバイオレメディエーション利用指針適合」

概要

環境汚染の浄化に微生物を用いるバイオレメディエーションには、現場の土着微生物を有機資材や浄化促進物質を投入して活性化するバイオスティミュレーション技術と外部から浄化微生物を導入して活性化するバイオオーグメンテーション技術がある。バイオオーグメンテーションに使用する微生物については環境省と経済産業省が共同で策定した「微生物によるバイオレメディエーション利用指針」(バイレメ指針)に基づいて安全性を確認することになっている。PCBやトリクロロエチレンを分解する浄化微生物開発とバイレメ指針適合確認に向けた取り組みを紹介します。

プロフィール

昭和53年・東京大学大学院農学系研究科農芸化学専攻修士課程修了、昭和55年・同博士課程中退、農学博士、昭和55年・東京大学農学部助手、平成3年・長岡技術科学大学工学部助教授、平成3～7年・JST国際共同研究プロジェクトグループリーダー兼任、平成7年・長岡技術科学大学工学部教授、現在に至る。平成21～25年・環境バイオテクノロジー学会長、平成18年から長岡技術科学大学アジアグリーンテック開発センター長兼務。

申込締切：平成26年1月17日(金)必着

参加申し込み書 (このままFAXして下さい)

FAX:0238-26-3240

連絡先等ご記入ください。

名前	
所属	
住所	
電話番号	
メールアドレス	

事務局：山形大学工学部 研究プロジェクト支援室 吉村
〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16 TEL.0238-26-3590 FAX.0238-26-3240